

第2次安曇野市総合計画後期基本計画市民意識調査報告書の要点

第2次安曇野市総合計画後期基本計画(令和5年度から令和9年度)の策定に向けて、市政に対する評価および住民ニーズの把握のために、「市民意識調査」を実施しました。

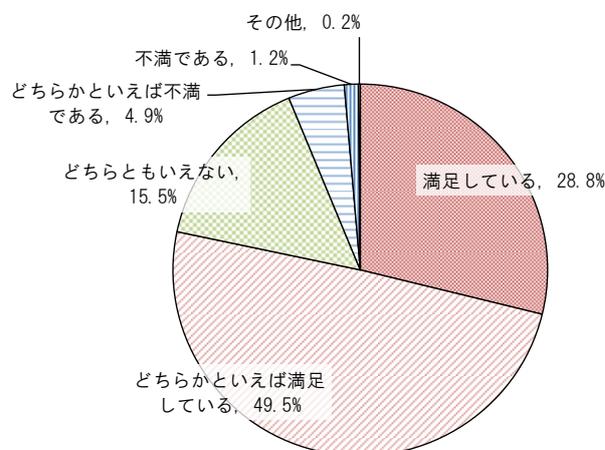
以下の内容は、市民意識調査報告書【速報版】の要点を示したものです。

(1)	調査対象	市内 18 歳以上の住民 2,000 人を対象に無作為抽出
(2)	調査期間	令和 4 年 4 月 4 日(月)～5 月 6 日(金)
(3)	調査方法	配布方法: 郵送による配布 回収方法: 郵送または WEB による回答
(4)	回収状況	回答者数 659 人(うち WEB による回答者 134 人) 回収率 33.0%

問3 あなたは安曇野市での生活にどの程度満足していますか。(本編 p.7～8)

- ・ 約8割(78.3%)の市民が安曇野市での暮らしに「満足」と回答。(満足している 28.8%、どちらかといえば満足している 49.5%)
- ・ 令和2年度調査では、「とても満足している(今回選択肢＝満足している)」(19.0%)と「どちらかといえば満足している」(56.6%)を合算した回答割合は 75.6%であり、今回調査はこれを 2.7 ポイント上回っている。

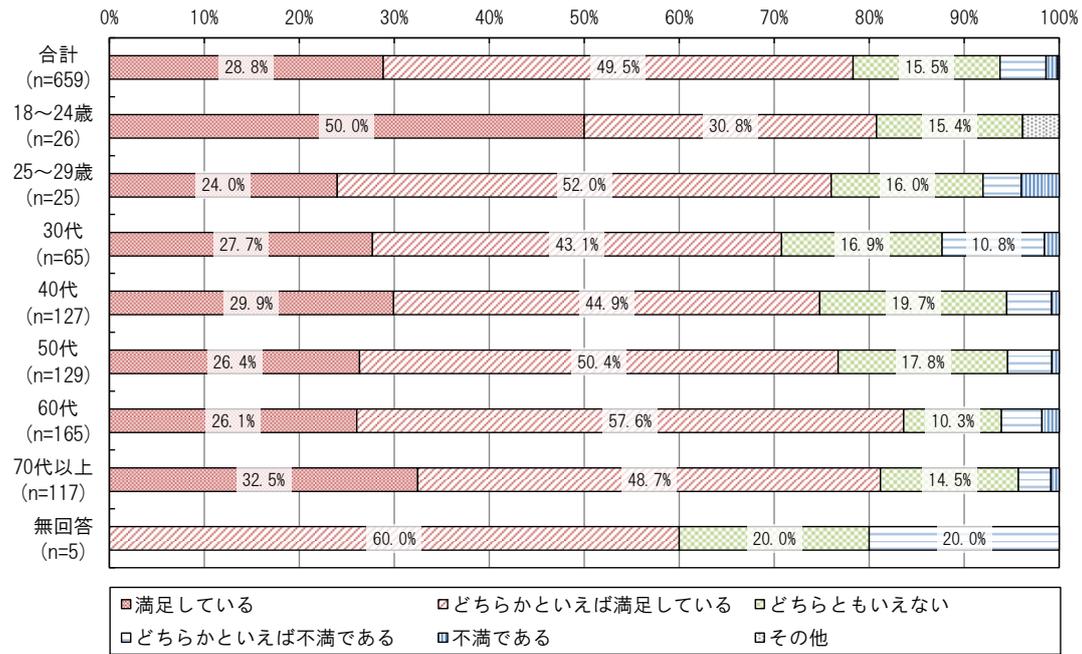
図表 1 安曇野市での生活の満足度



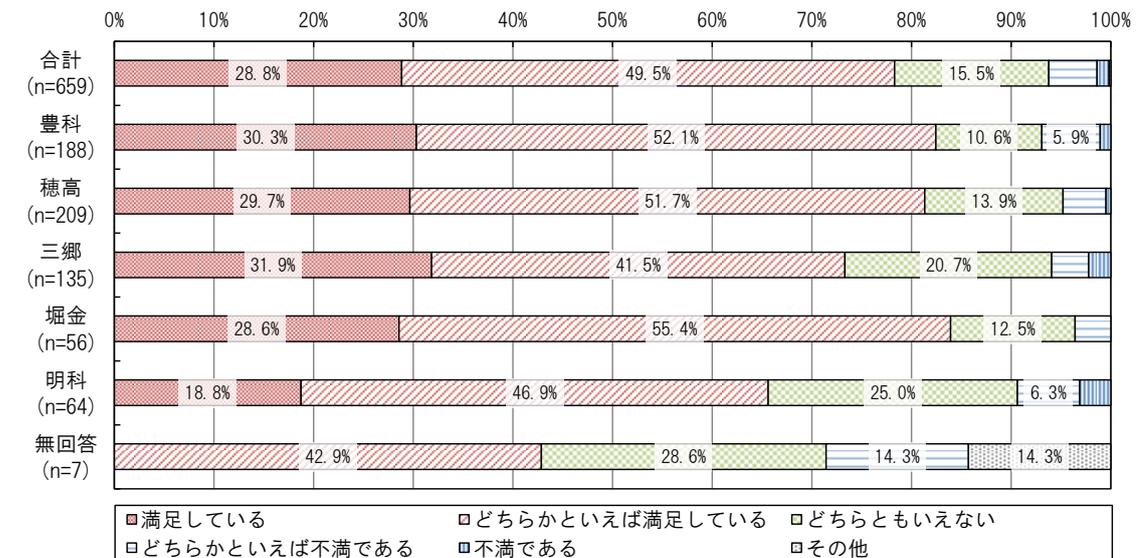
(n=659)

- ・ 年代別にみると、「満足している」と「どちらかという満足している」を合算した回答割合は、18～24 歳、60 代、70 代以上で市全体よりも高い。
- ・ 地域別にみると、「満足している」と「どちらかという満足している」を合算した回答割合は、堀金、豊科、穂高で市全体よりも高い。

図表 2 【年代別】安曇野市での生活の満足度



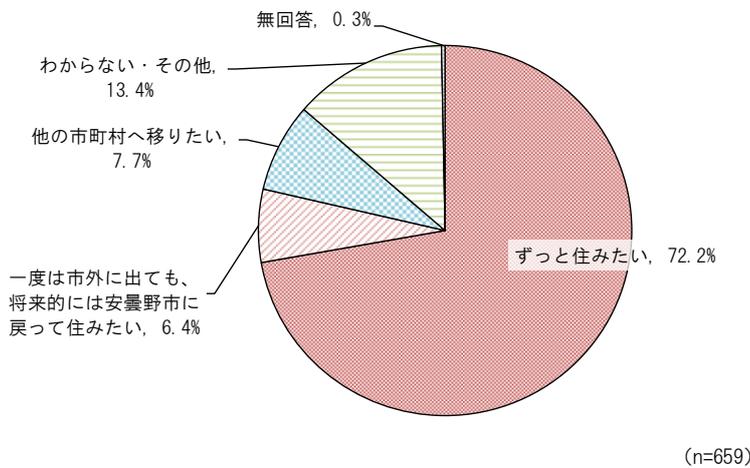
図表 3 【地域別】安曇野市での生活の満足度



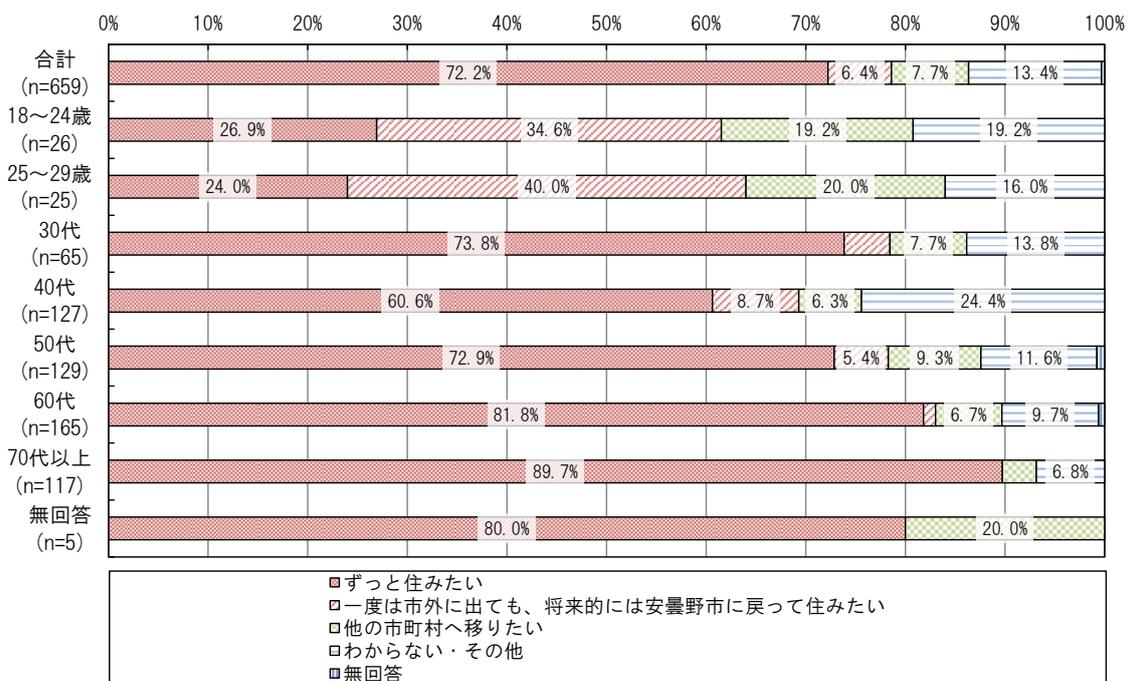
問 4. あなたは、これからも安曇野市に住み続けたいですか。(本編 p.9~14)

- ・ 約8割(78.6%)の市民が安曇野市に「住み続けたい」と回答。(ずっと住みたい 72.2%、一度は市外に出ても、将来的には安曇野市に戻って住みたい 6.4%)
- ・ 年代別にみると、「他の市町村へ移りたい」とする回答割合は 18~24 歳(19.2%)と 25~29 歳(20.0%)で高い。

図表 4 安曇野市での定住意向

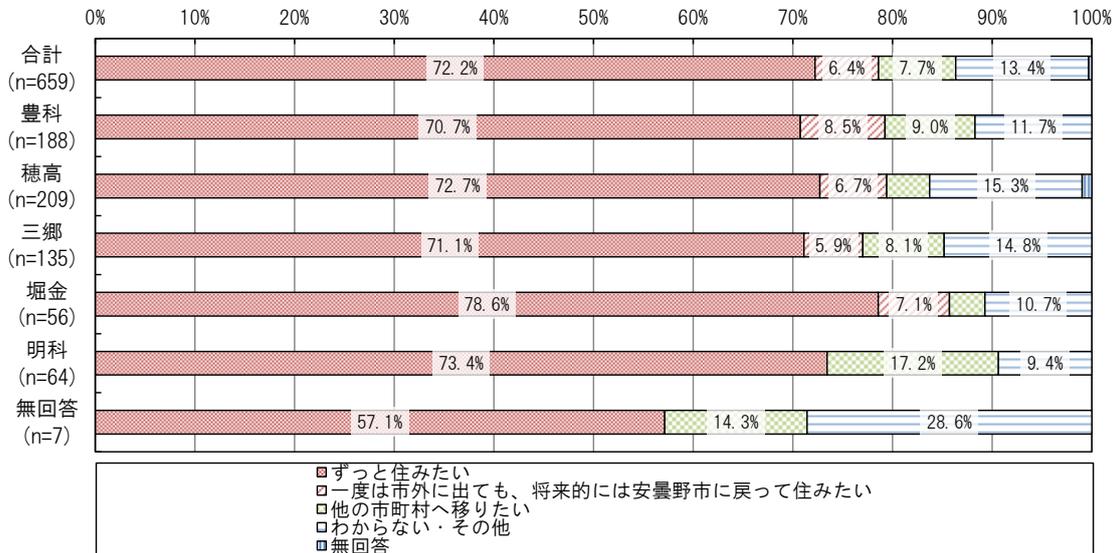


図表 5 【年代別】安曇野市での定住意向



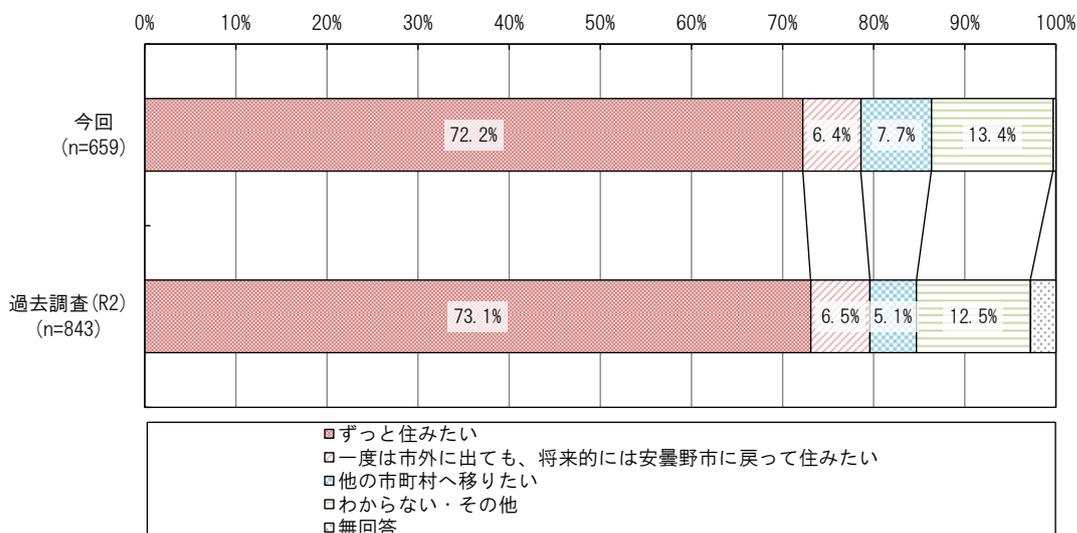
- ・ 地域別にみると、「ずっと住みたい」とする回答割合は、堀金、明科、穂高で市全体よりも高い。
- ・ 一方で、「他の市町村へ移りたい」とする回答割合は、明科が他の地域よりも高い。

図表 6 【地域別】安曇野市での定住意向

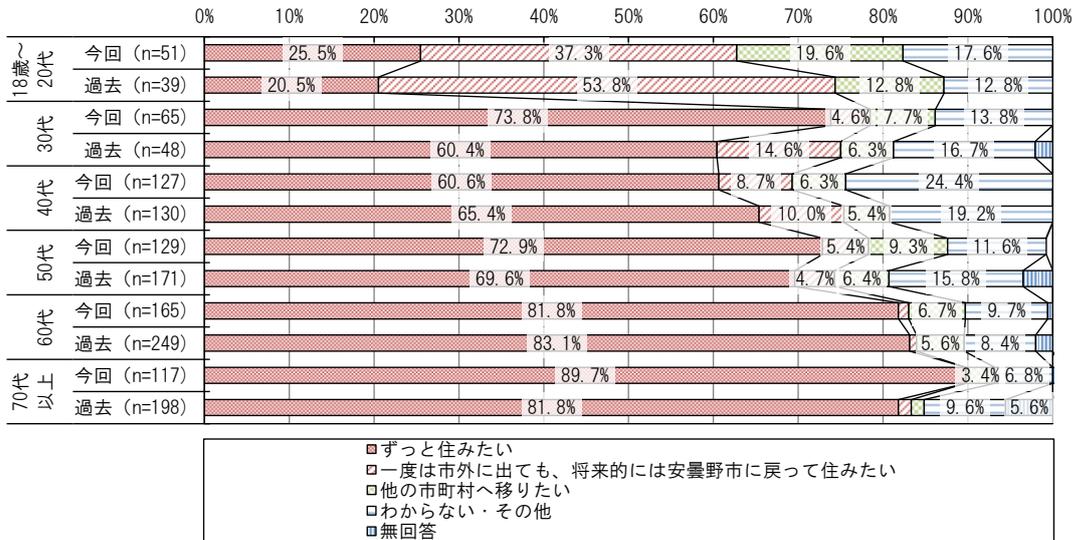


- ・ 令和 2 年に実施したアンケート調査の結果と比較すると「ずっと住みたい」が 0.9 ポイント低下した一方で、「他の市町村へ移りたい」は 2.6 ポイント上昇している。
- ・ 年代別に比較すると「ずっと住みたい」と「一度は市外に出ても、将来的には安曇野市に戻って住みたい」を合算した回答割合が上昇したのは、30 代、50 代、70 代以上。
- ・ 地域別に比較すると「ずっと住みたい」との回答割合が豊科を除く 4 地域で上昇している。

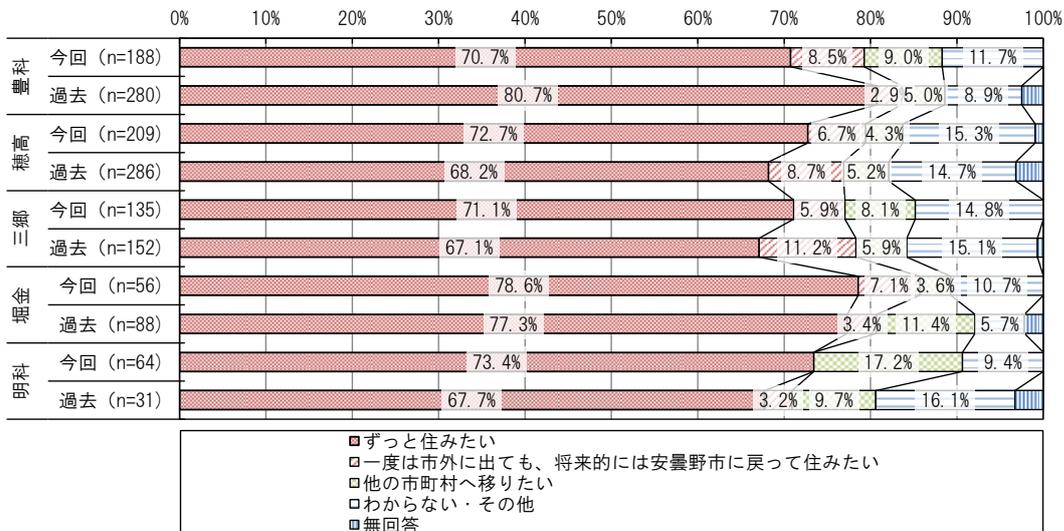
図表 7 【過去比較】安曇野市での定住意向



図表 8 【年代別過去比較】安曇野市での定住意向

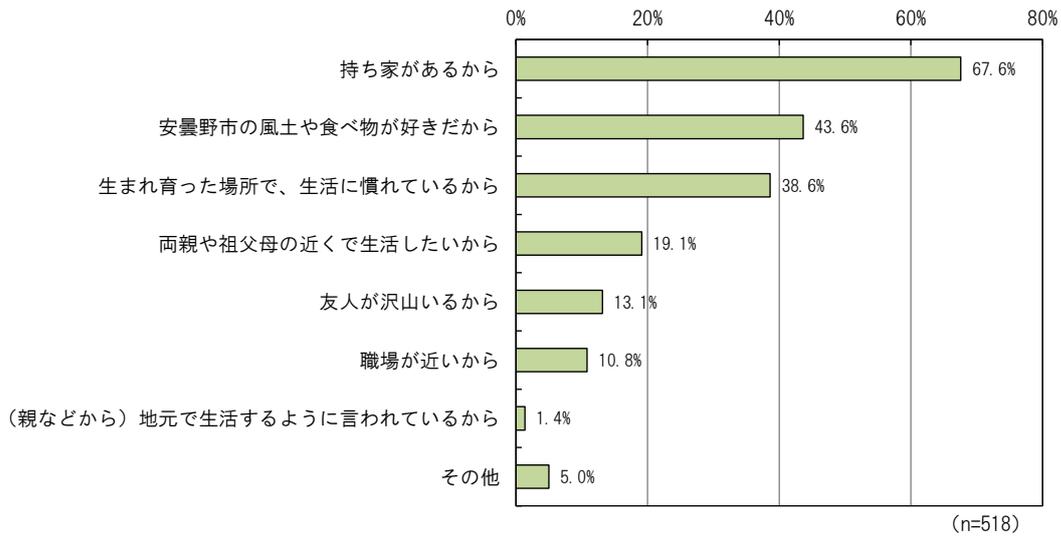


図表 9 【地域別過去比較】安曇野市での定住意向

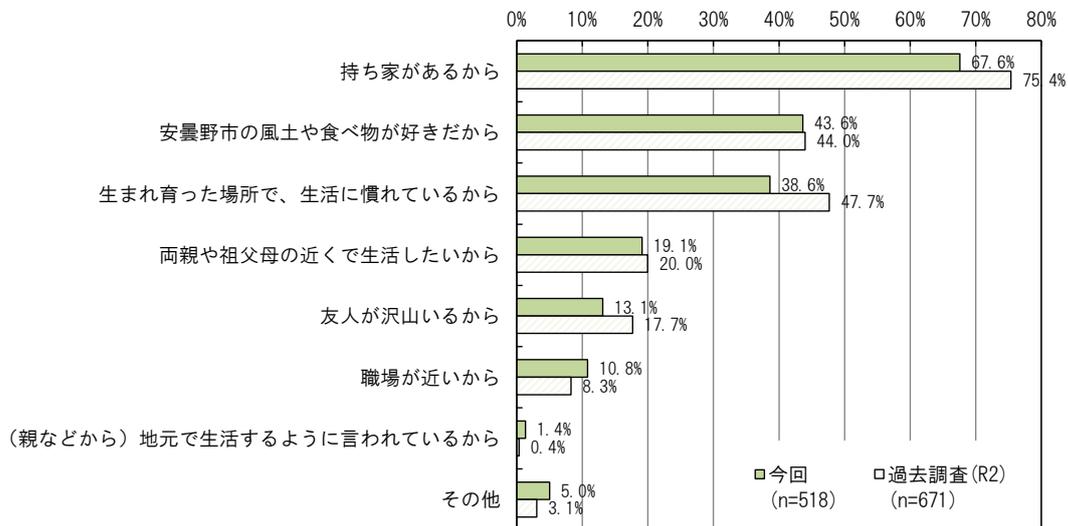


- ・ 住みたい理由の上位3つは、「持ち家があるから」、「安曇野市の風土や食べ物が好きだから」、「生まれ育った場所で、生活に慣れているから」。
- ・ 住みたくない理由の上位3つは、「買い物などが不便だから」、「近所付き合いや地区の役職等がわずらわしいから」、「冬の生活が大変だから」。

図表 10 安曇野市に住みたいと思う理由（“住みたい”と回答した方を対象）



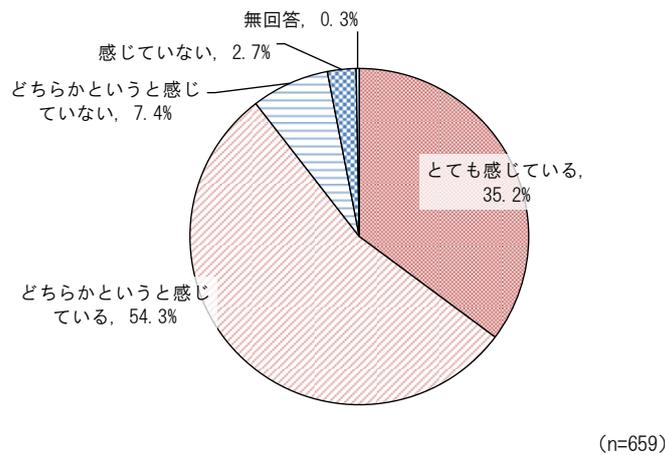
図表 11 【過去比較】安曇野市に住みたいと思う理由（“住みたい”と回答した方を対象）



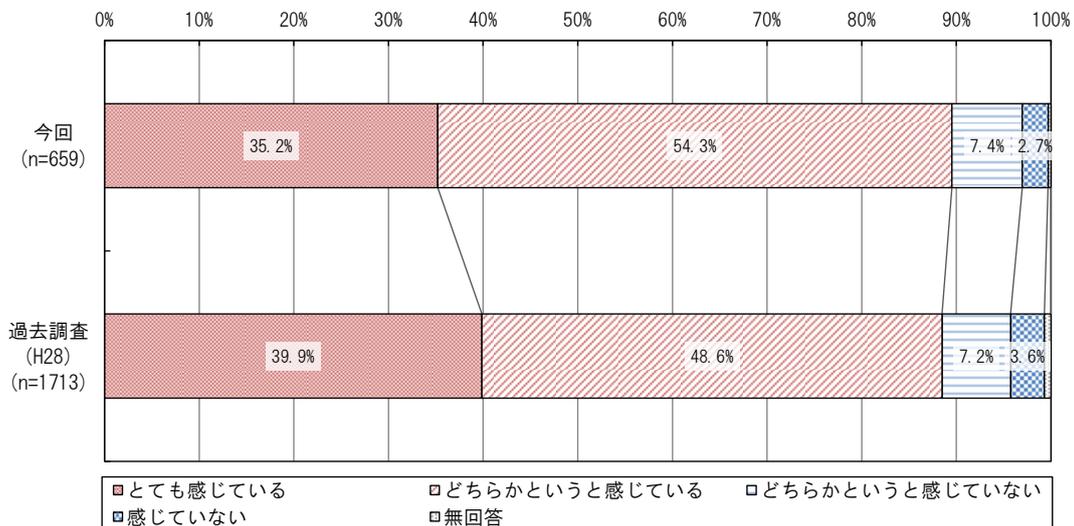
問 5. 安曇野市に愛着を感じていますか。(本編 p.15~18)

- ・ 約9割(89.5%)の人が「安曇野市への愛着を感じている」と回答。(とても感じる 35.2%、どちらかというと感じている 54.3%)
- ・ 平成 28 年に実施したアンケート調査の結果と比較すると「とても感じている」と「どちらかというと感じている」を合算した回答割合は 1.0 ポイント上昇している。

図表 12 安曇野市への愛着

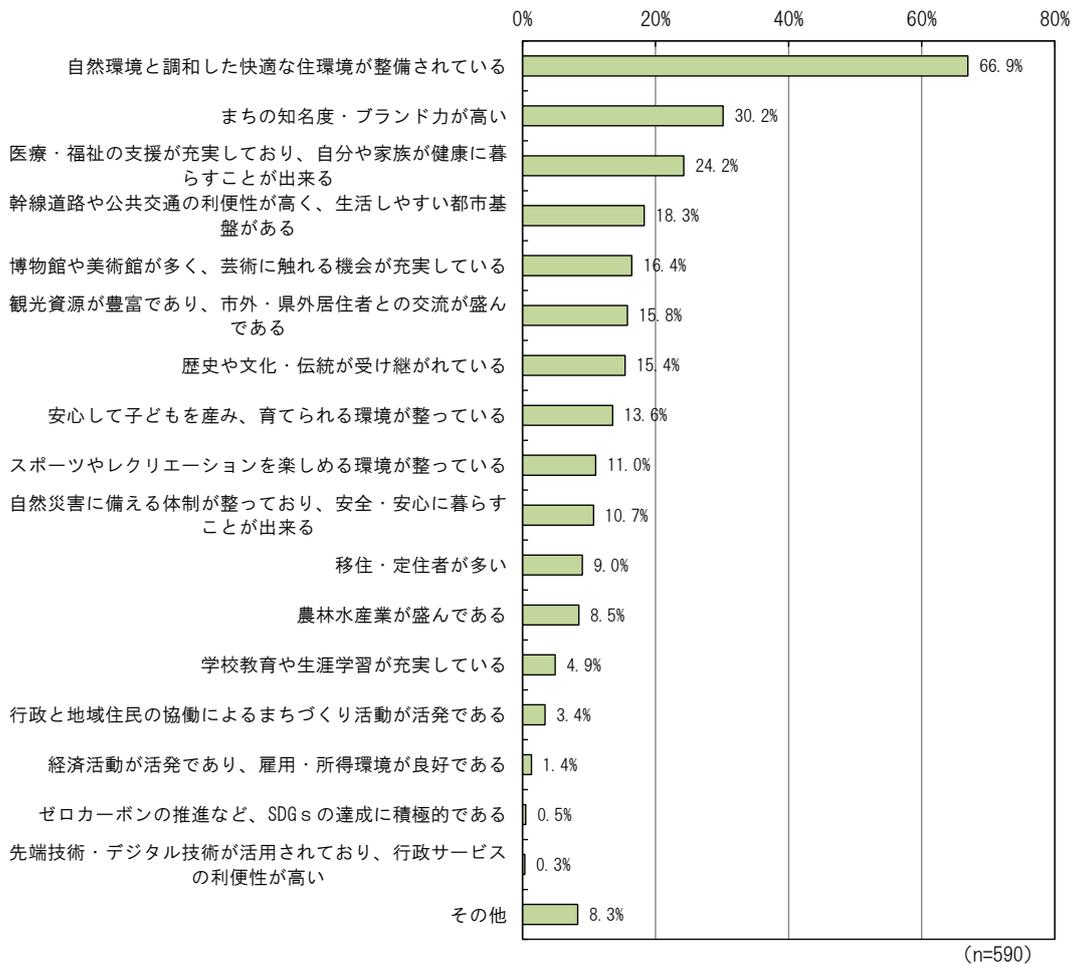


図表 13 【過去比較】安曇野市への愛着

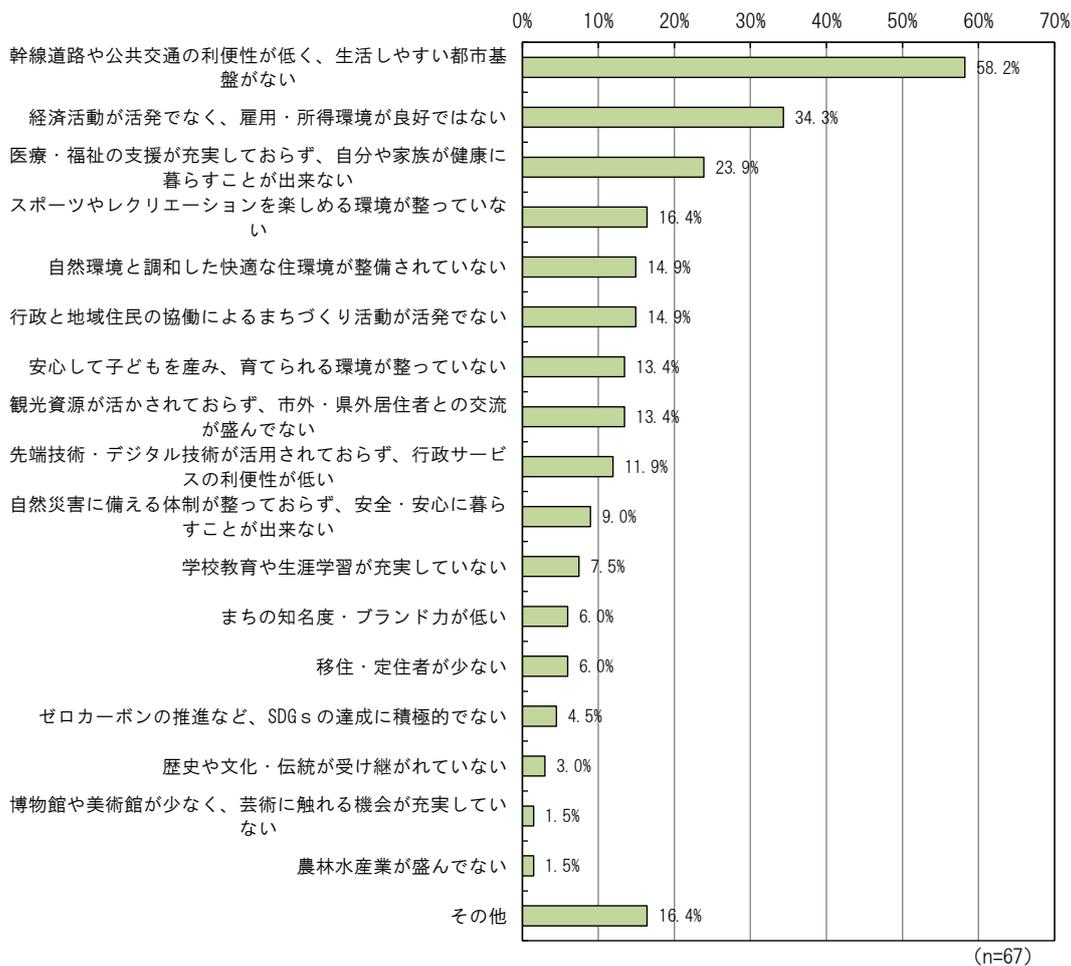


- ・ 愛着を感じている理由の上位3つは、「自然環境と調和した快適な住環境が整備されている」、「まちの知名度・ブランド力が高い」、「医療・福祉の支援が充実しており、自分や家族が健康に暮らすことができる」。
- ・ 愛着を感じていない理由の上位3つは、「幹線道路や公共交通の利便性が低く、生活しやすい都市基盤がない」、「経済活動が活発ではなく、雇用・所得環境が良好ではない」、「医療・福祉の支援が充実しておらず、自分や家族が健康に暮らすことが出来ない」。

図表 14 安曇野市に愛着を感じる理由（“感じている”と回答した方を対象）



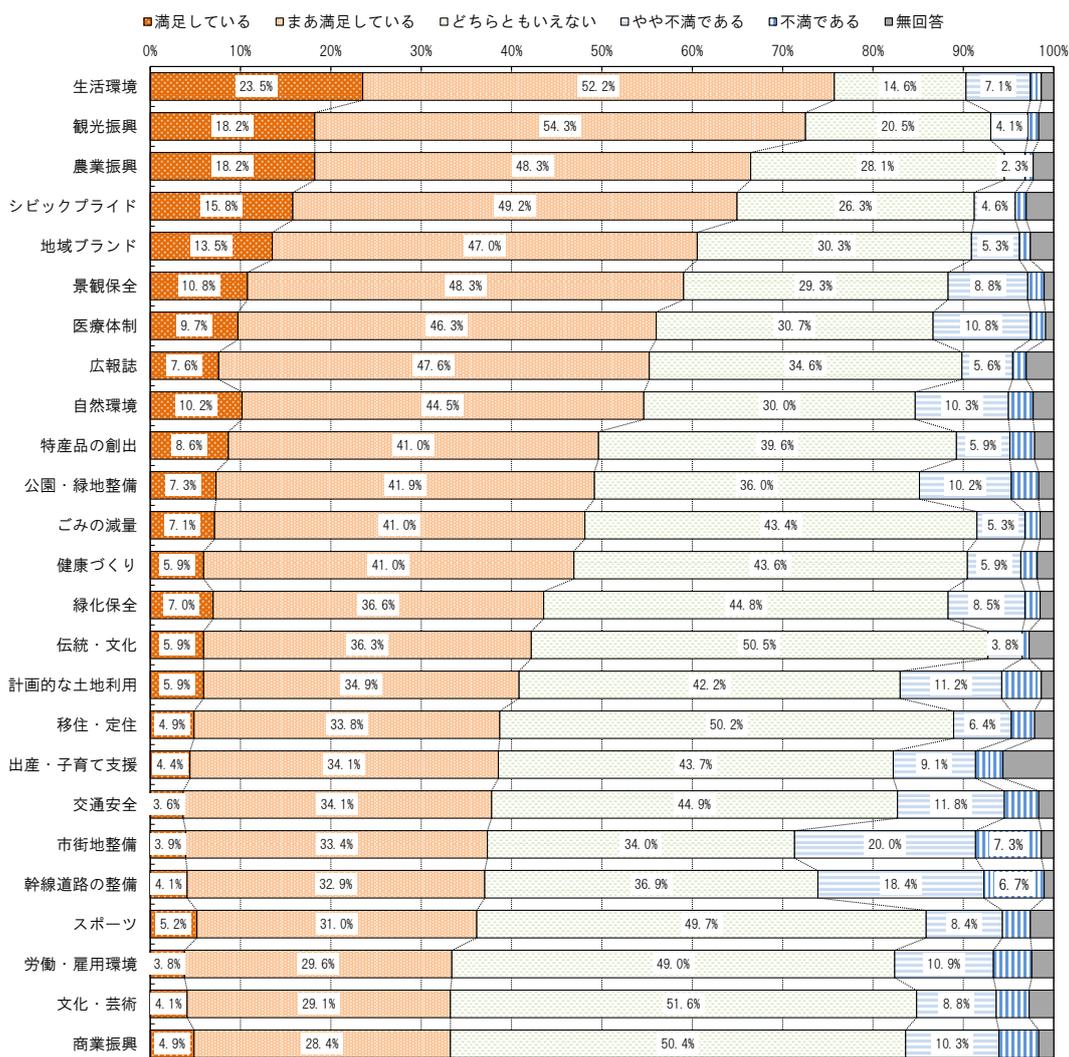
図表 15 安曇野市に愛着を感じない理由(“感じていない”と回答した方を対象)



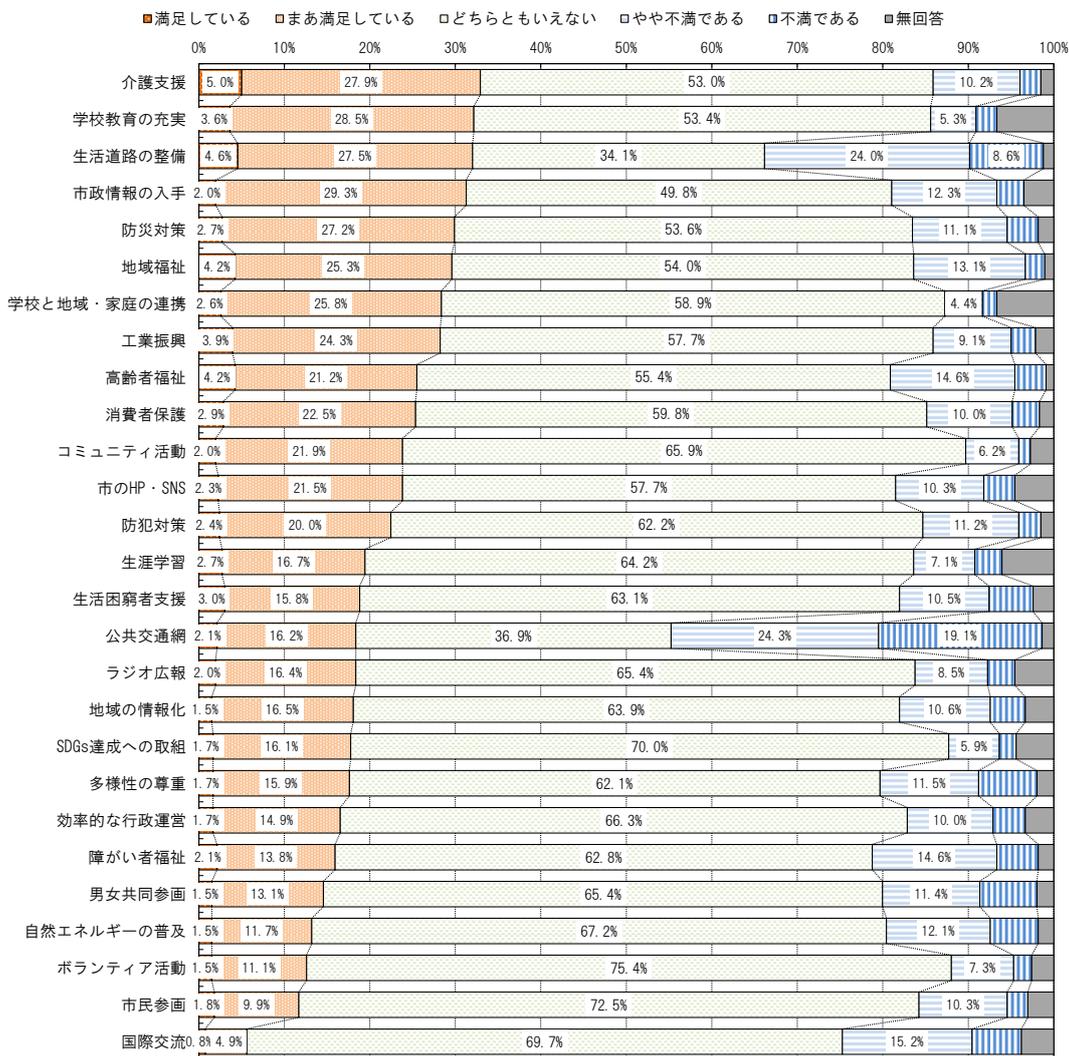
問7. ① 施策に対する現状の満足度（本編 p.21～22）

- ・ 52 施策のうち、「満足している」と「まあ満足している」を合算した回答割合の上位3つは、「生活環境」、「観光振興」、「農業振興」。
- ・ 一方で、「不満である」と「やや不満である」を合算した回答割合の上位3つは、「公共交通網」、「生活道路の整備」、「市街地整備」。

図表 16 市の施策に対する現状の満足度



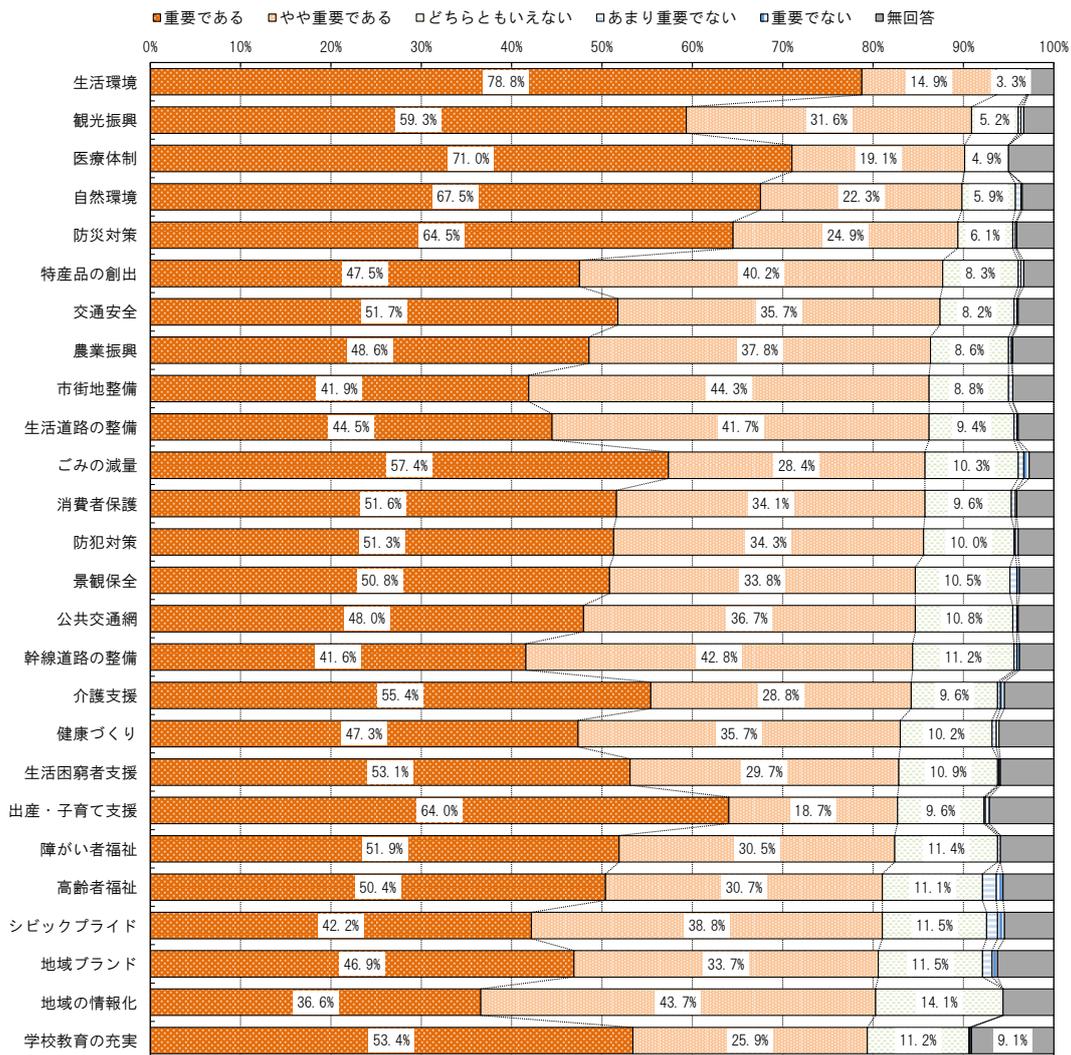
(※前ページからの続き)



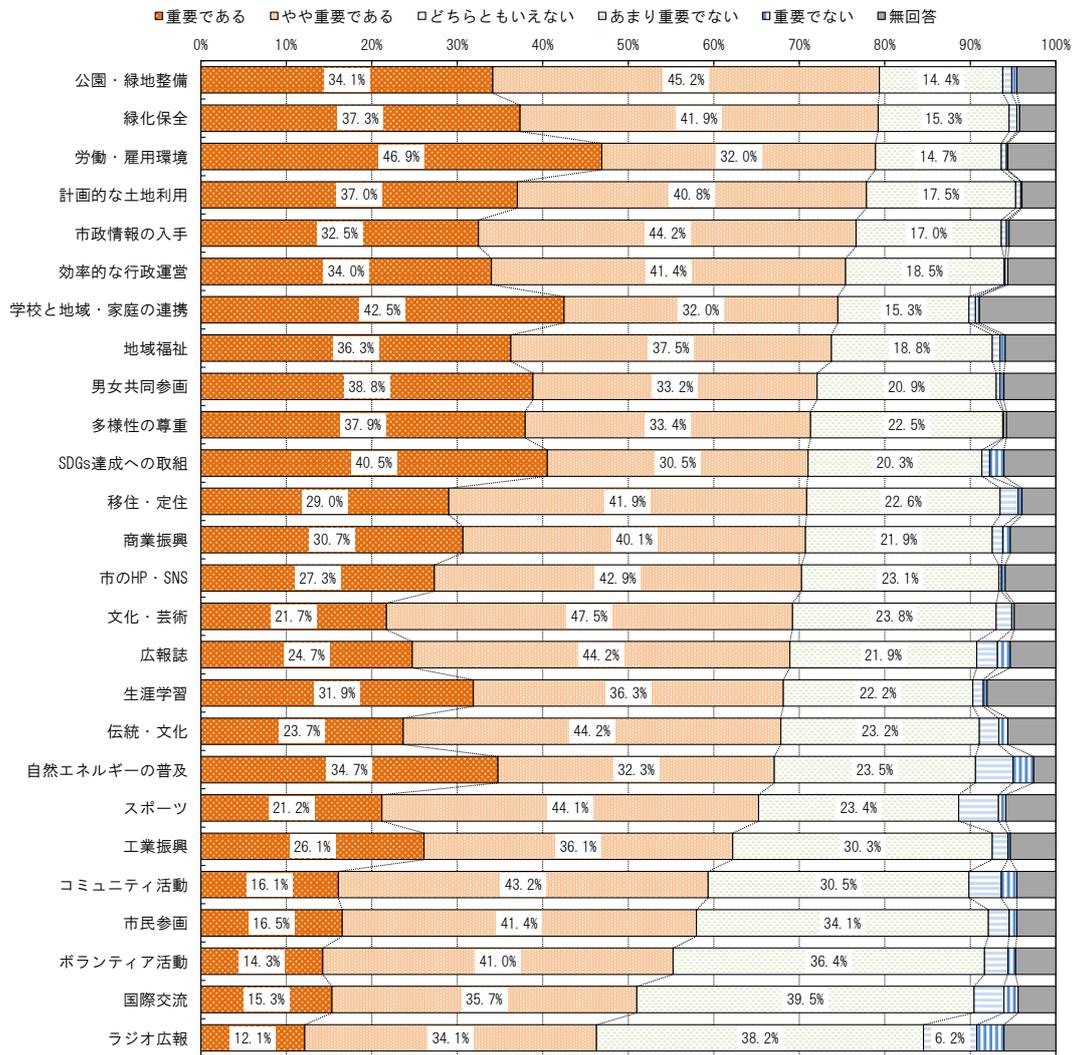
問7. ② 施策に対する今後の重要度（本編 p.23～24）

- ・ 52 施策のうち、「重要である」と「やや重要である」を合算した回答割合の上位3つは、「生活環境」、「観光振興」、「医療体制」。
- ・ 一方で、「重要でない」と「あまり重要でない」を合算した回答割合の上位3つは「ラジオ広報」、「自然エネルギーの普及」、「コミュニティ活動」。

図表 17 市の施策に対する今後の重要度



(※前ページからの続き)



問7. ③重要度×満足度マトリクス分析（本編 p.25～34）

【全体】p.26

- 52 施策のうち、「医療・福祉・人権」や「防災・防犯」、「都市基盤」分野を中心とする 15 施策が、今後重点的に取り組むべき施策として分類された。

図表 18 マトリクス分析結果一覧

分野	施策名（略称）	重要度：高い 満足度：高い	重要度：高い 満足度：低い	重要度：低い 満足度：低い	重要度：低い 満足度：高い
自然環境	自然環境	●			
	生活環境	●			
	自然エネルギーの普及			●	
医療・福祉・人権	ごみの減量	●			
	健康づくり	●			
	医療体制	●			
	地域福祉			●	
	障がい者福祉		●		
	高齢者福祉		●		
	介護支援	●			
	生活困窮者支援		●		
	男女共同参画		●		
多様性の尊重		●			
子育て支援	出産・子育て支援	●			
スポーツ	スポーツ				●
教育・学習	学校教育の充実	●			
	学校と地域・家庭の連携	●			
	生涯学習			●	
地域の伝統	伝統・文化				●
文化・芸術	文化・芸術				●
	国際交流			●	
防災・防犯	防災対策		●		
	交通安全		●		
	防犯対策		●		
	消費者保護		●		
			●		
都市基盤	市街地整備		●		
	計画的な土地利用				●
	景観保全	●			
	緑化保全				●
	公園・緑地整備				●
	幹線道路の整備		●		
	生活道路の整備		●		
	公共交通網		●		
農林水産業	農業振興	●			
経済活動	商業振興			●	
	工業振興				●
	労働・雇用環境		●		
観光	観光振興	●			
	特産品の創出	●			
地域ブランド	地域ブランド	●			
	シビックプライド				●
移住・定住	移住・定住				●
協働・コミュニティ活動	コミュニティ活動				●
	ボランティア活動			●	
	市民参画			●	
デジタル社会・行政サービス	地域の情報化			●	
	効率的な行政運営			●	
	市政情報の入手			●	
	広報誌				●
	市のHP・SNS			●	
	ラジオ広報			●	
SDGs	SDGs達成への取組		●		

【県内他市比較】p.27

- ・ 県内他市では、「医療・福祉」や、公共交通の充実や道路整備等を含む「都市基盤」に関する施策等が「重要度が高いが満足度は低い施策等」として分類されおり、複数の自治体で共通する課題となっているものとみられる。

【年代別】p.29～36

- ・ 「障がい者福祉」、「生活道路の整備」、「公共交通網」は全年代で重点的に取り組むべき施策として分類された。
- ・ 25～29歳の年代では「出産・子育て支援」の重要度が最も高く、重点的に取り組むべき施策として分類された。

【地域別】p.37～42

- ・ 「障がい者福祉」、「高齢者福祉」、「生活困窮者支援」、「多様性の尊重」、「消費者保護」、「公共交通網」はすべての地域で重点的に取り組むべき施策として分類された。
- ・ 重点的に取り組むべき施策として分類された施策数は、明科地域が 16 施策と最も多かった。

【過去調査との比較(満足度)】p.43

- ・ 比較できる全ての施策で満足度が上昇した。
- ・ 分野別にみると「医療・福祉・人権」、「防災・防犯」、「経済活動」に関する施策の上昇幅が大きい。
- ・ 一方、「自然環境」分野の施策の上昇幅が、比較的小さかった。

【過去調査との比較(重要度)】p.44

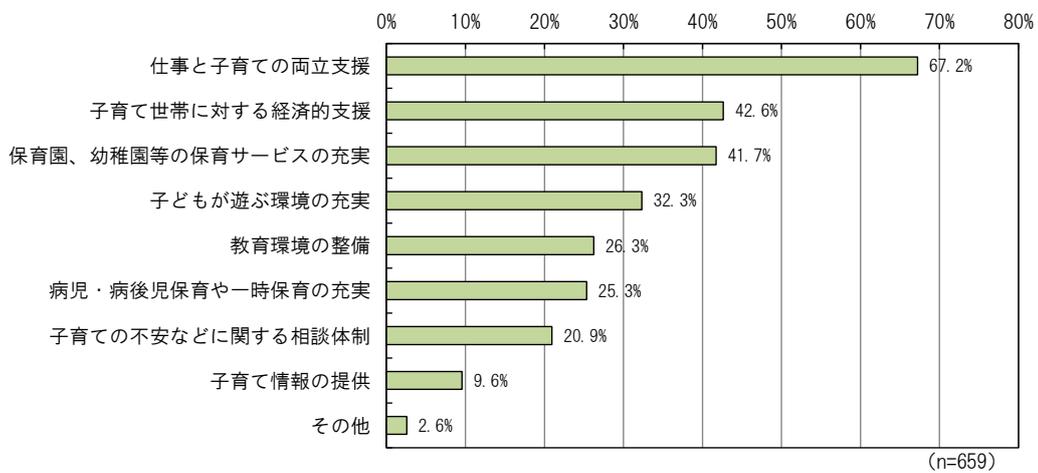
- ・ 分野別にみると「自然環境」、「医療・福祉・人権」に関する施策の上昇幅が大きい。
- ・ 一方、「都市基盤」、「協働・コミュニティ活動」といった分野に関する施策では、重要度が低下もしくは上昇幅が比較的小さかった。

その他の問（本編 p.45～）

【問 15. 子育てしやすいまちにするために必要だと思うもの】p.52

- ・ 子育て世帯が経済的に自立するための支援に関する項目である、「仕事と子育ての両立支援」、「子育て世帯に対する経済的支援」が上位2つとなった。
- ・ 年代別で比較すると、25～29 歳と 30 代で「子育て世帯に対する経済的支援」の回答割合がそれぞれ 76.0%、67.7%と、全体の回答割合(42.6%)をそれぞれ 33.4 ポイント、25.1 ポイント上回っている。

図表 19 子育てしやすいまちにするために必要だと思うもの



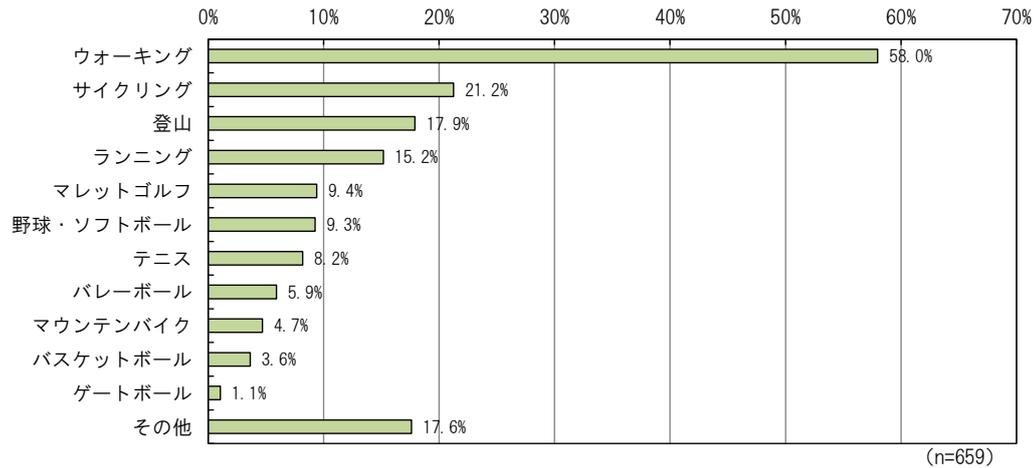
図表 20 【年代別】子育てしやすいまちにするために必要だと思うもの

	合計 (n=659)	18～24歳 (n=26)	25～29歳 (n=25)	30代 (n=65)	40代 (n=127)	50代 (n=129)	60代 (n=165)	70代以上 (n=117)	無回答 (n=5)
仕事と子育ての両立支援	67.2%	61.5%	68.0%	72.3%	55.9%	69.0%	74.5%	66.7%	40.0%
子育て世帯に対する経済的支援	42.6%	50.0%	76.0%	67.7%	44.1%	34.9%	35.2%	37.6%	40.0%
保育園、幼稚園等の保育サービスの充実	41.7%	53.8%	56.0%	47.7%	37.0%	44.2%	45.5%	29.9%	40.0%
子どもが遊ぶ環境の充実	32.3%	30.8%	32.0%	36.9%	43.3%	30.2%	26.7%	28.2%	40.0%
教育環境の整備	26.3%	23.1%	8.0%	27.7%	35.4%	31.0%	19.4%	25.6%	0.0%
病児・病後児保育や一時保育の充実	25.3%	11.5%	32.0%	21.5%	18.1%	28.7%	30.9%	23.9%	60.0%
子育ての不安などに関する相談体制	20.9%	19.2%	16.0%	9.2%	16.5%	17.1%	27.3%	29.1%	20.0%
子育て情報の提供	9.6%	15.4%	8.0%	10.8%	6.3%	9.3%	9.7%	12.0%	0.0%
その他	2.6%	0.0%	4.0%	1.5%	3.9%	3.1%	2.4%	1.7%	0.0%

【問 16. 健康づくりやレクリエーション活動の一環として取り組んでいる、または興味のあるスポーツ】p.53

- ・ 「ウォーキング」とする回答割合が過半数となり、突出して高い。
- ・ 「ウォーキング」や「サイクリング」など、屋外で行うスポーツの回答割合が高い。

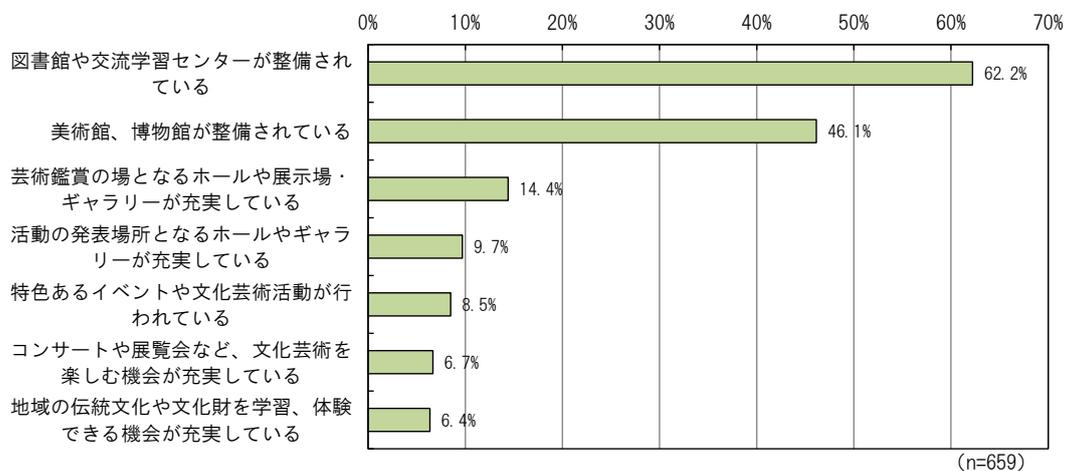
図表 21 健康づくりやレクリエーション活動の一環として取り組んでいる・興味のあるスポーツ



【問 23. 文化芸術環境の特徴】p.60

- ・ 「図書館や交流学习センターが整備されている」、「美術館、博物館が整備されている」とする回答割合が比較的高い。
- ・ 一方で、「コンサートや展覧会など、文化芸術を楽しむ機会が充実している」、「地域の伝統文化や文化財を学習、体験できる機会が充実している」といった、文化芸術に触れる機会の充実についての回答割合が比較的低い。

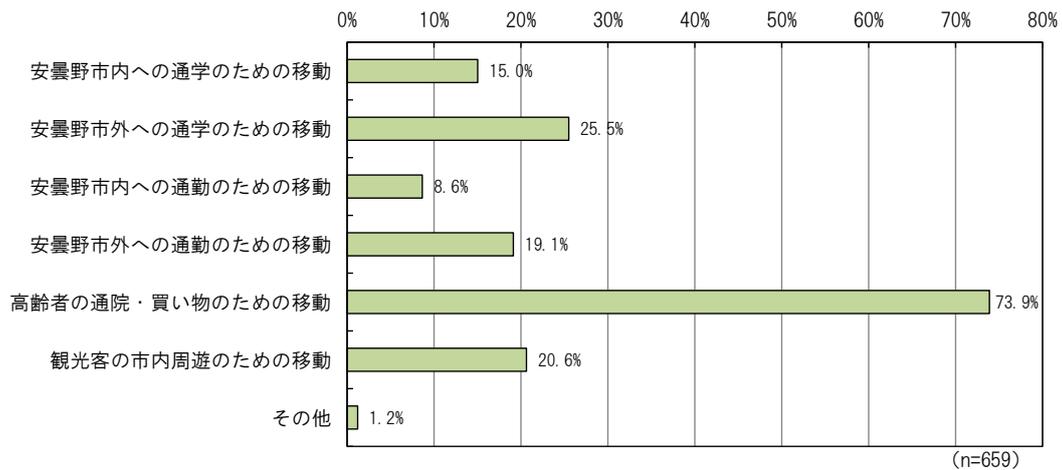
図表 22 文化芸術環境の特長



【問 28. 公共交通のあり方について、今後充実を図るべきもの】p.65

- ・ 「高齢者の通院・買い物のための移動」とする回答割合が過半数となり、突出して最も高かった。
- ・ 通学、通勤どちらにおいても、「市内への移動」より「市外への移動」を充実すべきとする回答割合が高い。

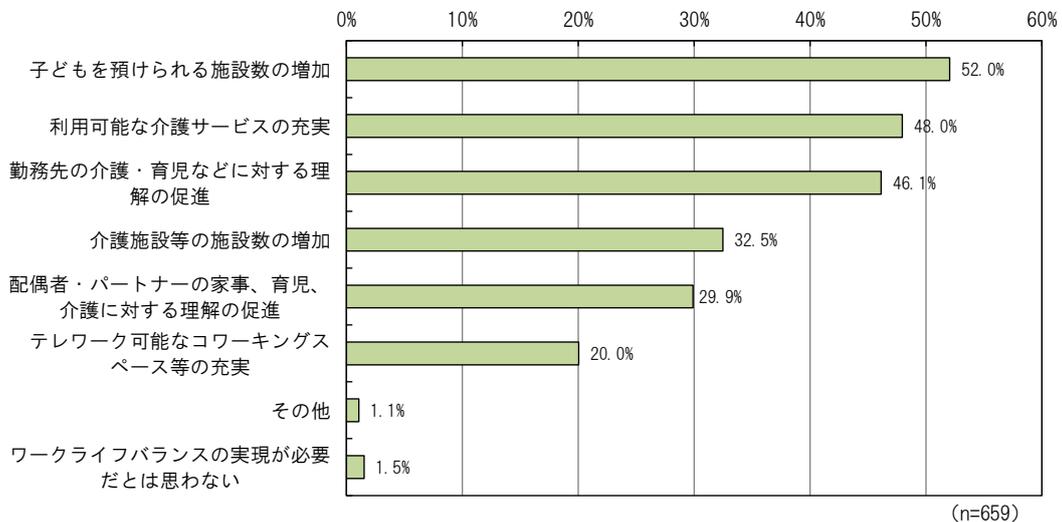
図表 23 公共交通のあり方について、今後充実を図るべきもの



【問 35. ワークライフバランスを実現するために市が取り組むべきもの】p.72

- ・ 「子どもを預けられる施設数の増加」とする回答割合が最も高い。
- ・ これに次いで「利用可能な介護サービスの充実」、「勤務先の介護・育児などに対する理解の促進」と続いた。
- ・ 「ウォーキング」や「サイクリング」など、屋外で行うものへの回答割合が高く、関心が強い傾向にある。

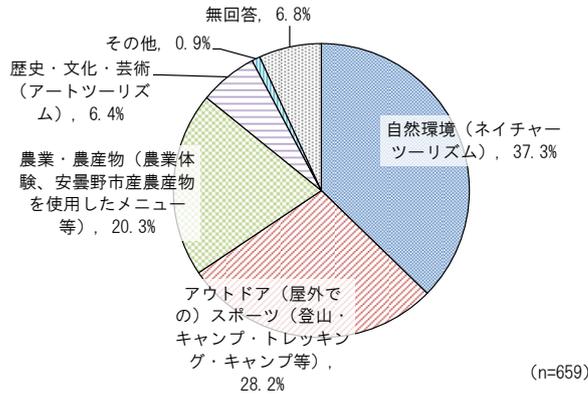
図表 24 ワークライフバランスを実現するために市が取り組むべきもの



【問 36. 観光振興を図る上で、市が取り組むべきもの】p.73

- ・ 「自然環境(ネイチャーツーリズム)」が最も高い。
- ・ これに次いで「アウトドア(屋外での)スポーツ(登山・キャンプ・トレッキング・キャンプ等)」が続いている。

図表 25 観光振興を図るうえで市が取り組むべきもの



【問 38. 安曇野市の人口減少抑制のために必要な取り組み】p.75

- ・ 「子育てと仕事の両立支援(企業への啓発活動等)」が最も高い。
- ・ これに次いで、「妊娠、出産、子育て支援(母子保健サービス、保育サービス等)」、「結婚、出産、子育ての希望実現のための、経済的自立の支援(就業相談、職業能力開発支援等)」、「子育て支援の充実(教育費の補助等)」と続いており、子育て支援に関する取組が上位を占めた。

図表 26 安曇野市の人口減少抑制のために必要な取り組み

